

授業科目：発生・組織学，口腔解剖学

担当教員：磯川 桂太郎，稲毛 稔彦，本田 雅規

授 業 の ね ら い	<p>大学院に進むということは，研究活動に参画するというものであり，既に解明され確立された知識を書物等から学ぶという学部学生の学習スタイルとは大きく違いがある。先人の足跡を正しく読み取りながらも，未知なるものを見据え，自らの方略でそれを明らかにしていくことが必須となる。先人の轍を尊ぶ敬虔さ，他者が気づかぬことに気づく細心さ，他者がなさないことをやり遂げる忍耐と頑固さ，これらを身につけようとする姿勢のもと，次のような論理的ステップで研究を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 文献読解，他者との討論を経た上での仮説立案・ 仮説の検証に則した明確で合理的な研究計画の作成・ 研究計画実施に必要な観察や実験の手技・技術の習得と実施・ 研究の進捗過程で遭遇するトラブルに対してのシューティング・ 得られたデータの整理・考察，他者との予備的な討論・ 成果の取りまとめと公表
テ ー マ	<p>発生および再生過程における組織・形態形成機構</p> <p>Specific aims:</p> <ul style="list-style-type: none">Lathyrogen 投与が基質線維及び形態形成に及ぼす影響の解析Tarsometatarsal bone とその骨膜の形成過程の発生学的なマッピング組織(特に歯に関する)幹細胞研究口腔組織の再生に関する研究歯の線維性支持組織の系統進化に関する研究
内 容	<p>発生と再生の過程には類似点が多いが，もっとも顕著な共通項はダイナミックな形態形成・組織形成であり，それは損傷に際しての修復などとは比ぶべくもない。</p> <p>当講座の研究テーマでは，発生や再生過程での形態形成・組織形成を巨視的に捉える顕微形態の姿勢をとりながら，これに関わる細胞外の基質や制御因子，またそれらの遺伝子発現を解析していくことになる。実験モデルは，肢芽，歯，長管骨などであり，胚組織を扱う in vivo の系と培養を用いる in vitro の系の両者を駆使する。実験の各ステップや結果，すなわち，提示する evidence として，形態的な観察所見や組織学的な可視化(visualization)を重視する研究姿勢を取る。</p>
成 績 評 価	<p>文献読解，仮説や実験方法の考案，実験の遂行能力，データの解釈，成果公表の実績等に加えて，コミュニケーション能力も勘案する。</p>
そ の 他	